

fun pun clock

Designed by Yoko Dobashi / Lemnos Inc. Made in Japan

機能面はもちろんデザインもオシャレで気に入っています。インテリアにも馴染みやすいと思います。まだ子供が赤ちゃんですが、時計が分かるようになったら、もっと活躍してもらおう予定



インテリアに合う!!

知育で人気があるだけ工夫された時計でした。子供も興味を持って眺めています。デジタル時計がメインの生活で時間を読める練習に役立っています。

シンプルなのに読みやすい！子育てを楽しめるリビングになった

親子に優しい時計ですね
納得できるセンスです

子ども用のカウンターデスクに置きました。
デザイン色合い共に◎

プレゼントにも！！

5歳の娘の時計読み練習用にリビングに置きたかったので、いかにも子ども向けではなくインテリアになじむものを探していました。娘は、さらに分表示まで読めることにとても喜びを感じるようです。

見た目が可愛く、遠くからでも時間が見やすいので重宝してます。長い針が8になったら40分だから出かけるよ～と時間を伝えやすいですね。

時計の針と時刻がとってもわかりやすくできていて、子どもが簡単に時間を言えるようになりました。今はダイニングテーブルの上に置いて息子に時間を知らせてもらうお願いを出来るようになりました。

子どもも嬉しそうに使ってます！短い針が指す数字の場所と長い針が指す針の場所がそれぞれ外側内側で分かれていて、時計が読みやすい工夫がしてあります。15.30.45と書いてある点も大満足

ADHDの息子は時間に幅があると知り、安心して暮らせるようになりました

朝の忙しい時間にイライラしていたのは、子どもが読める時計を置いていなかったから、と気がつきました

4歳になる息子へ
息子は、時計が分かりやすいようで、見て時間感覚を身につけようとしています。私は、デザイン、機能ともに満足！！

視覚優位の息子は緑色のふんぶんくろっくがお気に入りです

3歳の娘の誕生日に！ダイニングテーブルに卓上タイプを置いて使用しています。子どもが見える位置に置き、朝ごはんの時に大活躍！今何時かあと何分で出発か、毎日会話しながら食事しています。私的にはちょうど良いサイズで、将来的には学習机に置きたい

小学校へ入学した子供へ
時計の勉強にもなるし、朝いつまでもYouTubeを見て支度がなかなか進まないの、時計をTVの横に置いて、長い針が25を指すまでに、全ての支度を終わらせるように言ったら、次の日から何も言わなくても、自分で時間配分を考えて行動してくれるように！

魔法みたいに
時計が読める
ようになった!!

みんなに
優しい!

笑顔が
増えた!!

10周年記念キャンペーン

「わたしとふんぶんくろっく」

10th Anniversary | #わたしとふんぶんくろっく プロジェクトを始動します！

皆様のおかげでロングライフな人気を誇る知育時計 fun pun clock は、今年で発売 10 周年を迎えました。

それを記念し、#わたしとふんぶんくろっく プロジェクトを始動します。

＼ 写真を募集します！ ／

お子様と fun pun clock の写真を募集します。

皆様からご応募いただいた投稿写真の中から抽選で写真を使用し、特製ふんぶんくろっくカルタを製作します！

fun pun clock とお子様の思い出、エピソードもぜひ教えてください。

詳しくは、Lemnos ウェブサイト、インスタ@funpunclock、@lemnos_inc にて 7 月後半に告知します。

インスタ funpun アカウント
@funpunclock

funpun アカウント
QR コード



インスタ lemnos_inc アカウント
@lemnos_inc

lemnos_inc アカウント
QR コード



土橋 陽子
Yoko Dobashi

株式会社イデーに5年間('97～'02)所属。定番家具開発や、ロンドン・ミラノ・NYで発表されたブランド「SPUTNIK」の立ち上げに関わる。2012年より「Design life with kids Interior workshop」主宰。フリーランスデザイナー・インテリアライターとして、様々な企業や媒体と協働して独自の活動をしている。2017年にタカタレムノスにデザイン提供したfun pun clockがグッドデザイン賞受賞。Precious.jpにて「身長156センチのインテリア」連載中。
<http://yokodobashi.com/>

Special thanks!

開発協力：日本モンテッソーリ教育総合研究所 主任研究員 櫻井美砂

株式会社カラーワークス <https://www.colorworks.co.jp>

写真撮影：福岡幸治 <https://kojifukuzaki.tumblr.com>

ロゴデザイン：濱中幸子（濱中プロダクション） <https://www.hamanaka.pro>



株式会社タカタレムノス

東京ショールーム・オフィス / 〒112-0012 東京都文京区大塚 3-7-14 シャノワール文京 1F TEL：03-5981-8120 FAX：03-5981-8365

本社 / 〒933-0957 富山県高岡市早川 511 TEL：0766-24-5731 FAX：0766-22-8071

www.lemnos.jp info@lemnos.jp

※本体写真と実際の商品との色は印刷の関係上、若干異なる場合がありますので、予めご了承下さい。※無断転写・無断複写を禁じます。
Printed in Japan ©2024 TAKATA Lemnos Inc. All rights reserved.



誰もが平等に持っている“時間”。 時計によって“時間”を知り、自分なりの使い方を 選択することができる

2児の母でありインテリアのライターでもある土橋陽子さんがこの「fun pun clock」を形にしようと動き出した時、最初に相談に伺ったのが、日本モンテッソリー教育総合研究所主任研究員・櫻井美砂さんだった。

ブランド生誕10周年という機会に、改めて2人が再び話し合う。当時の制作話から、「時間」と「子ども」について。

photo & Interview 柿本真希(Lita)

日本モンテッソリー教育総合研究所附属『子どもの家』副園長
日本モンテッソリー教育総合研究所主任研究員
櫻井 美砂 (さくらい みさ)

日本女子大学家政学部 児童学科卒業 同大学院(人間社会研究科 教育学専攻)在学中。日本モンテッソリー教育総合研究所・教師養成通信教育講座「3歳～6歳コース」「0歳～3歳コース」ディプロマ取得。MOMTEP(ミズーリ州セントルイス)にてAMS 2歳半～6歳コース資格取得。保育士資格・幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状取得

土橋「まず試作をレムノスさんと作ってみて、櫻井先生に相談に伺ったんですね。子どもたちに実際に使ってもらい、意見をたくさんまとめてくださったので、それを参考に調整を重ねていきました。例えば、おしゃれなデザインは子どもにとっては意味がないこと、そして根拠のない色を使うことを気持ちが悪いと感じる子もいるということなど、本当に目から鱗の意見がたくさんありました。子どもの意見に沿いながら、少しずつ形になっていったのですが、子どもの発達に対して必然性のある選択を重ねた結果、大人が見ても素敵だと思えるデザインの時計になっていったことを覚えています」

櫻井先生（以下敬称略）「土橋さんとはお子さん2人がこの園に通って以来のご縁ですが、時計は園でも大事な存在なので、子どもたちの意見が反映されて出来上がっていくことはいい経験でした」

土橋「今も園で使ってくださいますが、子どもたちはどうですか？」

櫻井「その子の発達に合わせた形を選ぶので、子どもたちに時間というものを体感してもらう時、最初はもっとシンプルな形のもので伝えることもありますし、このfun pun clockで伝えることもあります。アナログ時計の方が時を刻むということが分かりやすいので、園では必ずアナログ時計を使っています」

まだ生活経験のない
子どもたちは“時間”
という感覚がわからない

土橋「ワークシヨップを主宰している時、時計が読めない子ども、それに困っているご両親が多かったです。その時、子どもが読みやすい時計がないことに気づき、読みやすさを突き詰めるならモンテッソリー教育の考えをベースに構築していくといいんじゃないかと思いました。子ども2人がこの園に通っていましたが、子どもたちはもちろん私自身も時間の使い方について考えさせられる機会が多かったように思います。お昼ご飯の前に、1分が経ったと思ったら手を挙げて立ち上がりお弁当の準備を始める“という時間がありましたよね”

櫻井「ありますね。時間の感覚は人それぞれ。1分間ってどれくらいなんだろうと、体感してもらうために行っていました。みんなそれぞれ自分の中でカウントするのですが、手を挙げるのが早い子からすごく遅い子までいて、それくらい感覚は違うものだよく分かります。他にも例えば、アイロンが温まるまでは3分という場面では、砂時計を使って視覚的に時間をとらえます。こうして体感した時間と、「3分間」という言葉結びつけながら、少しずつ時間の感覚を養っていくのです」

土橋「たしかに子どもは、まずは時間がどんなものなのか分かっていないですね」



実際のアナログ時計を見ながら数字を入れる時計の教具
一番上に「12」を入れるのが最初の一步
＜左から、タカクレムノス 菊地氏、土橋さん、櫻井先生＞

モンテッソリー教育から
教わった“待つ”
ということの重要性

土橋「モンテッソリー教育から学んだ時間の使い方の最も大きなことは“待つこと”だと思っています」

櫻井「そうですね。待つことはモンテッソリー教育の基本です。保護者の皆さんも初めて親になるわけだから、「子どもたちのことを待ってあげてください」と言われても、「待ってどれくらい？」と分からないのが当たり前ですよね。子育てしながら、大人側が“待つこと”を覚えていくしかないんです」

土橋「待つことは、観察を促しているんですよね。最初は、子どもの何を見れば観察になるのか分からなかったんですけども、幼稚園で人のお子さんと一緒に色々な活動に取り組んでいる我が子を見た時、自分の子どもを初めて見たという感覚があったことを覚えています。自分はそのままでちゃんと見れていたのかな？と振り返りました」

櫻井「例えば、子どもがパズルをしていて、正しい位置にピースを入れられなかったら、「あ！ここよ」と横から親が言ってしまうことってよくありますよね。我慢ができないんです。今正しい位置にピースを入れられなくても入れられても、そこは重要ではないんです。子どもが試行錯誤しているということが重要。大人はパズルがあると、これを完成させるという目的を知っているの、それが出来ないていることは、うちの子は発達



年長さんは活動に集中しながらも、ときおりチラッと残り時間を確認する
その姿に憧れ、年中さん年少さんも時計を見る習慣がつく

に遅れをとっているんじゃないかと思っってしまったります。そこで大人はどうしても試行錯誤を飛ばして、教えた直さなきやいけないって思ってしまう。けれど、「あつ」と思った時に一度飲み込んでみて欲しい。そこで待つこと。そうすると子どもたちが自分で試行錯誤した上で、パチッと正しい位置に入れられる瞬間が現れます。それを見た時に、我が子が自分でできるんだと大人側が驚くことがあります。出来る出来ないではなく、試行錯誤を繰り返すことで、子ども自身も自分で解決する力、発見する喜び、最後までやり抜く忍耐力を持つようになります。待つということには、親が忍耐力を持って、子どもを観察するという意味が含まれているんです」

土橋「そうなんですよね。それを私も学んだというのに、今成長した子どもに対して待てず「何がやりたいの？」と詰めてしまったりもしています。大人側の意識が重要なんですよね」

櫻井「モンテッソーリ教育のベースにあるのが、自己教育力。子どもは自分で育つ力があるよということがまずあるのですが、そこを大人も信じて、その上で子どもを見ると待てるようになっていきます。お子さんそれぞれでペースは違う。だからこそ、我が子の自己教育力を信じて、じっくり見て待つことが必要になるのです」

目に見えない「時間」を
時計をきっかけに
理解していく



土橋「時計を使ってくれたお母さんから「息子と私の人生が変わりました」とご連絡をいただいたことがあります。「子どもに3時までこれをやリなさい」と伝えた時に、息子さんは時計をじっと見ていて、3時になって慌てて始めて、「これだと終わらないじゃないか」と自分をぶっつけてしまっていたそうなんです。お母さんがfun pun clockを見せながら時間には幅があるということを教えたら、3時に終わらせるためには自分はこれから辺から始めればいいんだと知り、頭をぶたなくなったとのこと。この時計によって時間の量を知り、時間の使い方を学んでいった欲しいという思いがあるのですが、本当に嬉しかったです」

櫻井「大人はもう全て知ってしまったているので、子どもが何が難しいか、何につまづくのか、分からないんですよね。大人から言葉で説明すれば子どもは分かる



時間の量を知る with color! に、「らしさ」を子どもに押し付けない
ジェンダーレスカラーを追加 選択肢を示すのはデザインの役割

はずと思いがちですけど、子どもは生活経験が少ないから、言葉だけでは理解しづらい。特に時間は目に見ることができないから、砂時計やfun pun clockを使って、その時間の量を生活の中の動作と結びつけて伝えて体感していくこと、発見していくことには価値があると私も思います」

知的好奇心を刺激し、
自ら発見する。そういった
環境づくりが大切に

土橋「モンテッソーリの園は、子どもが知リたがっていることを刺激してサポートできるように、教具が置かれていますよね。自ら興味を持たせ、それを自然とやってみることができるような環境というものは、子育て世代のインテリアを考える仕事の際にもとても役立っています」

櫻井「子どもの知的好奇心（知リたがっていること）を刺激したり答えるべく、その環境を散リばめておいています。その中で、子どもが自分で出会って発見していく。大人はただ待っているわけではなく、環境を作った上で待ち、観察し、子どもが自分で一歩踏み出していけるよう、そつと手は差し伸べます。ただ環境があればいいわけではなく、子どもと環境が関わっていきけるよう結びつけていく。それを実現するためには、ベースに観察が必ず必要になります。そういった環境づくりの中で重要な一つが、時計だと思います」



どんなに大きな数も点・線・面で表せる！
子どもに大人気のモンテッソーリ教具「金ビーズ」
実は数への興味は4〜5歳の就学前に訪れる

待つということだけでなく
その子の発達段階において
必要か考える

土橋「待つことって理解していても本当に難しい。どうしても焦ってしまったり、押し付けてしまったり、近道させてあげようとしたり」

櫻井「観察と待つことは重要なのですが、状況やその子の段階も違うので、ただ待てばいいというわけではないところもあるんです。何か起きた時、その要因に何があるか、考えることがまず必要かもしれません。子どもに何か言う前に、まず大人の関わり方や、大人が子どもに対して影響を与えている何かがあるかどうか考えてみてください。生活の上で、我が身を振り返ることが必要なんじゃないかと思います。また、待つためにはなるべく大人は子どもに対して教えるということはしてはいけな思われがちですが、一概にそうではなく、教えるべきこともあるし、いけないことはいけないと言わないといけないんです。ただそれが大人の都合ではなく、その子の発達段階において必要なことかどうか、ということをまず大人側が考えることが重要になります」

土橋「それは子どもが高校生になっても、大事な考え方だと思います。その子の発達段階において、という前提で考えることはずっと必要ですね」

櫻井「そうですね。子どもだからと決めつけないことも大切だと思います。子どもだからといってなんでも許されるわけ

でもなく、家庭や社会の中の一員であるという自覚を持たせる必要もありますから。子どもは毎日成長しているから、今日出来ないことが明日も出来ないというわけではないんです。そして、必ず今出来なければいけないというわけでもなく、もう少し成長したら出来るようになっていく。大切なことは、その子の今の発達に合わせて、援助するのか、見守るのかを判断することです。判断する時には大人のスキルが必要であり、それにはやはり観察力が必要になるんです」

誰もが平等に持つ「時間」
は世界共通言語でもある

土橋「私は時計のデザイナーと言われたりしますが、時計のデザイナーではないんです。たまたま時計だっただけ。では自分はなぜこれを作ったんだろう？と考えると、思い出すのは園のことが多くて。「幼稚園と自宅なら、自宅の時間のほうが圧倒的に多いんですよ」と子どもが幼ない頃に櫻井先生がおっしゃった言葉も印象的です。当たり前のことなのですが、改めて「確かにこの子たちの幸せな日常は私がマネージメントをサポートしなきゃいけないんだ」と思いました。そういう意識を持って過ごしてきて、今良かったなど思えるのは、子どもたちは進路や習い事など大事な場面で、「自分の生きている時間をどこでどう使うのか自分で選ばせてくれた」と言ってくれたことです」



時計は、世界共通！と改めて認識したMoMA(ニューヨーク近代美術館)の限定モデル 逆輸入の形で日本へ

が平等に持っているもの。時間の使い方が、その人の人生を形作っていく。時計が読めない間は、その子は選択する指標がないんですよね。モンテッソーリ教育に出会えたこと、自分の幼い頃、子育て、そういったことが全て重なってこの時計を作ることになった気がしています。時計という存在は、世界共通言語のような存在なのだと思うんです」

fun pun clock with color!

ふんぷんくろっく ウィズ カラー

アナログ時計の持つ「円グラフ」の特徴を活かしながら、色を効果的に使い、1時間をおおらかに4分割して捉えることで、子ども自身でスケジュールを管理できるように導いてあげられることを意図とした時計です。1コマ=15分の区切りとなる「0分」「15分」「30分」「45分」に白を残す事で、気持ちを一度切り替える、白(地の色)になる心の余裕を促しています。インテリアペイントのメーカー・株式会社カラーワークス協力のもと、12種類の顔料をブレンドして作った同社の繊細な色合い1488色の中から選びぬきました。

ブライウッド枠は、より環境にやさしい自然素材を用いた木枠に3つの配色。シックなインテリアにもカジュアルで遊び心のあるインテリアにも馴染みます。

第13回キッズデザイン賞受賞(日本)

色の効果で、自分の時間を
つくるのがうまくなるアナログ時計。



YD23-09 BG
ベージュ
4515030101390



YD23-09 GY
グレー
4515030101413



YD23-09 LI
ライラック
4515030101406

YD23-09 φ203×d48mm 425g ブライウッド、ガラス スイープセコンド ¥11,000(本体価格 ¥10,000)

fun pun clock with color! for table

ふんぷんくろっく ウィズ カラー フォア テーブル

15分は1時間に4つある。ちょっとした作業のできる「15分」を1コマとしてスケジュールをおおらかに段取り、手元で確認しやすい大きさと軽さの「fun pun clock with color! for table」。

お子さんのデスクに置くことで視界に入り、「〇〇時まであとどれくらい」と意識しながら取り組めるという特徴があります。

第13回キッズデザイン賞受賞(日本)



YD18-05 RE
レッド
4515030076063



YD18-05 LBL
ライトブルー
4515030076070

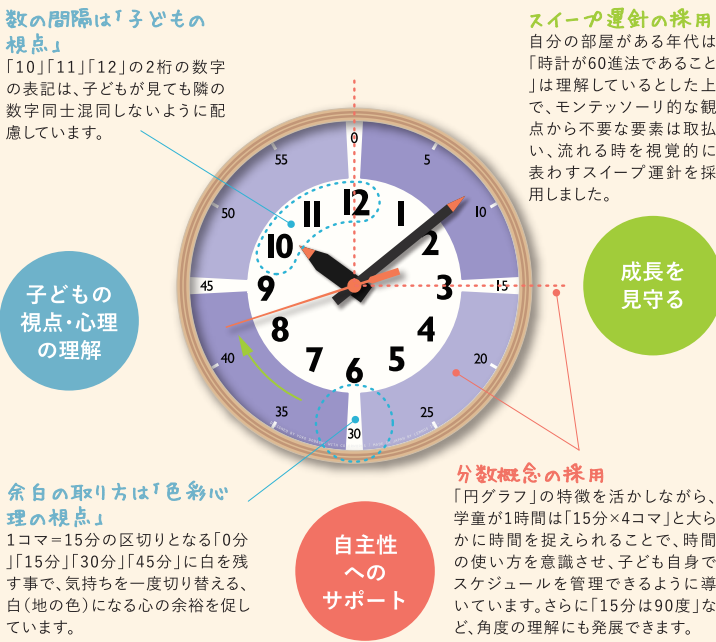


YD18-05 YE
イエロー
4515030076094



YD18-05 GN
グリーン
4515030076087

YD18-05 w150×h161×d62mm 300g ABS樹脂、ガラス スイープセコンド スタンド付属 ¥6,600(本体価格 ¥6,000)



数の間隔は「子どもの根点」

「10」「11」「12」の2桁の数字の表記は、子どもが見ても隣の数字同士混同しないように配慮しています。

子どもの視点・心理の理解

余白の取り方は「色彩心理の根点」

1コマ=15分の区切りとなる「0分」「15分」「30分」「45分」に白を残す事で、気持ちを一度切り替える、白(地の色)になる心の余裕を促しています。

自主性へのサポート

スイープ運針の採用

自分の部屋がある年代は「時計が60進法であること」は理解しているとした上で、モンテッソーリ的な観点から不要な要素は取払い、流れる時を視覚的に表わすスイープ運針を採用しました。

成長を見守る

分数概念の採用

「円グラフ」の特徴を活かしながら、学童が1時間は「15分×4コマ」と大らかに時間を捉えられることで、時間の使い方を意識させ、子ども自身でスケジュールを管理できるように導いています。さらに「15分は90度」など、角度の理解にも発展できます。



性別問わず手に取れるジェンダーレスカラー「ライラック」

fun pun clock

ふんぷんくろっく

名前の由来は、“時”を表わす「1~12」の文字が、60進法の“分”の読み方となった際に「5ふん(fun)」「10ぶん(pun)」「15ふん(fun)」「20ぶん(pun)」と交互に繰り返されることから名付けました。

fun pun clock ふんぷんくろっく



YD14-08L
ナチュラル
4515030075028



YD14-08L BW
ブラウン
4515030101604



YD14-08M
ナチュラル
4515030075035



YD14-08M BW
ブラウン
4515030101499

子育て経験のある女性デザイナーの「母親の視点」と、日本モンテッソーリ教育総合研究所主任研究員・櫻井美砂様のご協力を得て開発に取り組んだシンプルで素材の美しい、どのようなインテリアにも合うデザインの時計です。

時計と関わろうとする時期のお子様へ、モンテッソーリ教育の視点からヒントを得て「時間や時刻の理解を促す」為の仕掛けがちりばめられています。お子様が時計に興味をお持ちになった際は、是非一緒に音読したり親子のコミュニケーションの時間をお過ごしください。

2017年グッドデザイン賞受賞(日本)、第13回キッズデザイン賞受賞(日本)



YD14-08S
ナチュラル
4515030075394



YD14-08S BW
ブラウン
4515030101482

YD14-08 L / YD14-08 L BW φ354×d48mm 970g ブライウッド、ガラス ステップセコンド ¥16,500(本体価格 ¥15,000)

YD14-08 M / YD14-08 M BW φ305×d48mm 725g ブライウッド、ガラス ステップセコンド ¥13,200(本体価格 ¥12,000)

YD14-08 S / YD14-08 S BW φ254×d48mm 580g ブライウッド、ガラス ステップセコンド ¥11,000(本体価格 ¥10,000)

fun pun clock for table

ふんぷんくろっく フォア テーブル

お子さんと一緒に秒針を数えたり、分針の12進法と60進法の関連を指で確認したりと、手元で行いやすい大きさと軽さの「fun pun clock for table」。壁かけと同じデザインの文字盤を見比べることで、より時刻や時間の理解が深まります。また、ご高齢の方はダイニングテーブル等の定位置に座り、手の届く範囲に時計を置いておきたいという声もあり、お孫さんと過ごすひとときにもおすすめです。足元の付属パーツを取り外していただければ、掛時計として壁にかけられます。奥行きにボリューム感があるので、ちょっとしたお部屋のアクセントにもなります。

2017年グッドデザイン賞受賞(日本)、第13回キッズデザイン賞受賞(日本)



YD18-04
ナチュラル
4515030076056

時計の読み方が、
読みたいと思うアナログ時計。



YD18-04 w150×h161×d62mm 300g ABS樹脂、ガラス ステップセコンド スタンド付属 ¥5,500(本体価格 ¥5,000)

